

追悼・木村利三郎

2017年1月5日(木)～4月9日(日)

I はじめに

木村利三郎(1924～2014)は、世界中から芸術家が集まるニューヨークで活躍した美術家のひとりです。彼はマンハッタンで出会ったスクリーンプリントによって、「都市の構造と崩壊」をテーマにした作品を制作し続けました。その中には、図らずして同地の悲劇を予示するかのような作品や、崩壊の先にある都市の再生や発展を期待させるものが含まれています。町田市立国際版画美術館は、このような彼の版画約370点を所蔵しており、今回は2014年に惜しまれつつも亡くなった「リサ」こと木村利三郎の版画を追悼の意を込めて展覧します。

III 渡米後

マンハッタンに居を構えた木村は、600ドルでスクリーンプリントの道具を譲り受けて制作を始めました。そして新聞をモチーフにした『THE NEW YORK TIMES』シリーズや、生涯のテーマとなる都市を表わした『CITY』シリーズで注目されるようになります。またアンディ・ウォーホル(1928～1987)やナム・ジュン・パイク(1932～2006)といった当時を代表する美術家たちとも接点を持ち、執筆活動を通じてニューヨークの美術事情を日本に伝える役割も担っていきました。さらにユダヤ人コミュニティの学校を存続させるための資金集めとして格安

で版画を提供したり、渡米してきた日本人の支えになったりするなど、木村は多くの人に慕われた美術家でもありました。

彼の制作意欲は晩年になっても衰えることなく、日本での個展の準備を進めていた2014年5月17日、89歳でこの世を去ります。

IV 「都市の構造と崩壊」

永久の棲み処となった摩天楼都市マンハッタンが、木村に与えた影響は計り知れません。高層ビルや街頭にあふれる標識、交通網や通信網とそこを行き交う人々や情報など、都市を形づくるさまざまな要素が抽象化・記号化され、スクリーンプリントによって色鮮やかに表現されています。

1975年頃からは崩れゆく都市が散見されるよう

になります。エッチングによる崩壊のイメージは具象的かつ有機的であり、その多くが暗々たる雰囲気漂わせています。注目すべきは世界貿易センターを思わせる作品でしょう。木村は1971年の建設開始時から目にしていたこの超高層ビルに「バベルの塔」を重ねていたのかもしれませんが。さらに彼のまなざしは高度に複雑化した情報網や集積回路、そして宇宙ステーションを想起させる作品に見られるように、都市の未来像へも向けられていました。

木村利三郎の都市のイメージは抽象的であるがゆえに、多様かつ普遍的なメッセージをもちうるといえます。9・11と3・11を経験した世界に、彼の描き出した都市はいったい何を語りかけてくるのでしょうか。

II 渡米前

木村は1924年に現在の横須賀市に生まれました。戦時中には学徒動員され、空襲によって廃墟となった東京を目撃しています。そして終戦後の1947年に横浜師範学校(現在の横浜国立大学)を、1954年には法政大学哲学科を卒業。美術評論家を目指していた彼は、美術への理解を深めるために自らも制作活動に入りました。

1957年からは町田市立国際版画美術館の初代館長でもあった美術評論家の久保貞次郎(1909～1996)との交流が始まり、彼を通じて瑛九(1911～1960)や鬘嘔(1931年生まれ)、池田満寿夫(1934～1997)といった美術家たちと知り合いました。

また木村は久保が主導した創造美育運動にも参加。1960年には同運動の仲間であった竹田鎮三郎(1935年生まれ)とアメリカ占領下の沖縄を旅し、同地に取材したりトグラフを残しています。

一方で版画を教えていた横須賀のアメリカ兵の話から異国への憧憬を募らせた木村は、1964年に逗子のアトリエを売り払って単身渡米。法政大学時代の師であった哲学者の谷川徹三(1895～1989)の「本物を見なければ駄目だ」という言葉も、木村の旅立ちを後押ししたようです。



木村利三郎《City 379》スクリーンプリント

出品リスト

No.	題名	制作年	技法	寸法 (イメージ)
1	題名不詳		リトグラフ	385×520mm
2	題名不詳 (沖縄民話鉄縄礁より)	1962年	リトグラフ	350×460mm
3	題名不詳		スクリーンプリント	534×353mm
4	THE NEW YORK TIMES #32	1968年	スクリーンプリント	535×353mm
5	City 1	1968年	スクリーンプリント	460×608mm
6	City 6	1968年	スクリーンプリント	493×558mm
7	City 8		スクリーンプリント	340×420mm
8	City 23		スクリーンプリント	333×494mm
9	City 31 / Under Ground of WALL ST.	1968年	スクリーンプリント	844×564mm
10	City 83	1968年	スクリーンプリント	757×384mm
11	THE NEW YORK TIMES #57	1969年	スクリーンプリント	556×352mm
12	City 115		スクリーンプリント	653×499mm
13	City 123	1970年	スクリーンプリント	589×420mm
14	City 133	1970年	スクリーンプリント	684×536mm
15	City 136A City 136B		スクリーンプリント	各 468×390mm
16	City 151	1971年	スクリーンプリント	640×422mm
17	AMSTERDAM	1973年	リトグラフ	713×508mm
18	LONDON	1973年	スクリーンプリント、リトグラフ	711×510mm
19	BERLIN	1973年	スクリーンプリント、リトグラフ	687×511mm
20	City 196		スクリーンプリント	502×650mm
21	City 202		スクリーンプリント	551×399mm
22	City 208 / City 341		スクリーンプリント	505×653mm
23	City 303 A	1975年	スクリーンプリント、エッチング	450×305mm
24	City 309 A	1975年	スクリーンプリント、エッチング	353×514mm
25	City 310		スクリーンプリント、エッチング、アクリル	455×290mm
26	City 326		スクリーンプリント	486×650mm
27	City 336	1977年	スクリーンプリント	645×502mm
28	City 369		スクリーンプリント	637×498mm
29	City 379		スクリーンプリント	640×500mm
30	TOWER / City 415	1981年	エッチング	223×183mm
31	City 425		スクリーンプリント	498×650mm
32	City 434		スクリーンプリント	488×620mm
33	City 449 / N.Y.C.2000		スクリーンプリント	398×497mm

畦地梅太郎コーナー

No.	題名	制作年	技法	寸法 (イメージ)
1	富士山	1941年	木版多色	256×404mm
2	めぐりあい	1956年	木版多色	580×480mm
3	冬山の像	1961年	木版多色	557×362mm
4	山の親子	1975年	木版多色	392×288mm

浮世絵玉手箱

作者	題名	制作年	寸法
三代歌川豊国、歌川国久	江戸名所百人美女	新大はし 安政5年(1858)	大判錦絵
歌川芳虎	東海道名所図会	元治元年(1864)	大判錦絵十二枚続のうち三枚

2017年1月5日発行

〒194-0013 東京都町田市原町田4-28-1

町田市立国際版画美術館 ☎042-726-2771 <http://hanga-museum.jp/>